

## 大門坂

杉が立ち並ぶ苔むした道と風化した石段が霧の中にそびえる大門坂は、熊野古道の中で最も美しい区間かもしれません。大門坂は那智川の渓谷流域から熊野那智大社、青岸渡寺、そして那智大滝まで延びています。約 600 メートルにわたって 267 の石段が続くこの坂の高低差は 100 メートル以上です。

### 行き方

大門坂駐車場から大門坂の入り口に向かうには、県道 46 号線を北に向かって進み、道の脇に大きな石碑と木の看板があるところで左に分岐する道に入ります。この道を石段に突き当たるまで進み、石段を登ったところから舗装された道をさらに進むと、大きな石の鳥居にたどり着きます。鳥居の向こうには鮮やかな朱塗りの振ヶ瀬橋があります。

### 振ヶ瀬橋

振ヶ瀬橋は、俗世と聖域の境界でした。橋の手前の左右には「下馬」と書かれた石標があります。参詣者は皆、この橋から先は徒歩で進まなくてはなりませんでした。

また、この橋の先では肉などの不浄とされる食べ物も禁じられていました。『那智参詣曼荼羅』の左下には、橋の手前に座って手持ちの食糧を食べている二人の参詣者が描かれています。

### 大門坂茶屋

橋を渡った左側にあるのは大門坂茶屋です。この茶屋は伝統的な着物を身につけて参詣の旅を締めくりたい参詣者に平安時代の衣装を貸し出しています。毎年 10 月の最後の日曜日、平安衣装に身を包んだ何百人もの人々が一緒に大門坂を登ります。「あげいん熊野詣」と呼ばれるこのイベントでは、平安時代（794-1185）後期の賑わいに溢れていた参詣道の様子が再現されます。

### 夫婦杉

正式な大門坂の入り口は、巨大な夫婦杉によって標されています。これらは 12 世紀に鎌倉幕府を開いた源頼朝によって寄贈されたものと伝えられています。

### 多富気王子と十一門関所

何世紀もの間、夫婦杉のほど近くにあるカシの木の隣には多富気王子が立っていました。多富気王子は、熊野詣の最盛期に参詣道沿いに並んでいた王子社と呼ばれる 100 社近くの諸神社のひとつでした。多富気王子は、那智山（現在の熊野那智大社と青岸渡寺）への道中で最後の王子社でした。多富気王子の跡地には石碑が立てられています。

大門坂をさらに進むと、かつて関所があった場所を示す小さな木の看板があります。通行料は 11 文で、これは銭湯一回分よりは高いけれどそば一杯よりは安いくらいの料金でした。今日、この場所は那智大滝がよく見える場所として知られています。